

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
309	独立行政法人酒類総合研究所
<b>題名 (原題/訳)</b> Maternal Separation Alters Acquisition of Ethanol Intake in Male Ethanol-Preferring AA Rats. 雄のエタノール嗜好性 AA ラットの母からの分離はエタノール摂取の獲得を変化させる	
<b>執筆者</b> Roman E, Hyytia P, Nylander I.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Alcohol Clin Exp Res 2003 ;27(1):31-7	
<b>キーワード</b> エタノール、母親分離、嗜好性	
<b>要 旨</b>  毎日、長時間母親から分離されると薬物に対する依存症を促進するリスクが増加するが、短期間の母親からの分離はエタノール摂取を減少させる効果が報告されており、この要因として脳内オピオイドが長期にわたり変化することが報告されている。エタノール嗜好性ラット AA ラットでは通常の内因性オピオイドペプチドのレベルが変化しており、これが、自発的なエタノール高嗜好と関連していると報告されている。本研究では AA ラットで母親からの分離がエタノールの自発的摂取に影響を与えるかについて検討した。  方法としては、ラットの幼児を生後 1-21 日の間、15 分 (MS15)、または 360 分 (MS360)、母親から分離した。コントロールラットは通常飼育を行った。成長して、雄ラットは次第にエタノール濃度を増加させていった。また拘束ストレスがアルコール摂取に与える効果について自発的エタノール摂取量を調べた。その結果、MS15 ラット群は MS360 ラットやコントロールラットより後で、高アルコール摂取量を示した。MS15 ラットはエタノール摂取量がコントロールに比べて低く、8%エタノール濃度で嗜好性を示した。一方コントロールラットでは摂取量に変化しなかった。  これまでにウィスターラットで長期にわたる母親からの分離が将来的にエタノールの摂取量の増加につながることを示されている。本研究で遺伝的に高嗜好性の AA ラットではこのような効果は観察されなかった。しかしながら、短期間の母親からの分離はエタノールの高い嗜好性獲得を遅延させ、自発的なエタノールの摂取量や嗜好性を減少させた。さらに、15 分間の母親からの分離は後の人生でエタノール摂取量の増加に抗することが示唆された。	